

謹賀
2022
新年



令和4年新年のごあいさつ



市議会議長
南野 直司

新年明けましておめでとうございます。

日頃より摂津市議会に対し、温かいご理解とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

昨年を振り返りますと、新型コロナウイルスの蔓延により多くの都道府県で緊急事態宣言や蔓延防止重点措置が実施され、東京オリンピック・パラリンピックが無観客での開催となるなど、長期間にわたる行動制限が行われてきました。

本市においては、摂津まつりをはじめとした多くのイベントが中止となり、各地域においても活動自粛を余儀なくされてきました。

このような中、各自治会では少人数の班編成で防犯や美化活動を実施され、つどい場等では参加者の時間調整をしながら活動を継続することにより、人と人との交流を図られておりました。また、市営三島団地では生活の支援を必要とされる方を地域で支える活動が新たに始まっております。このような交流や共助が地域コミュニティの原動力となっていることを改めて感じました。

摂津市議会といたしましても、地域の人々が「つながり」「支え合い」を実感できるまちづくりの実現に向け、行政と知恵を出し合い、全力で取り組んでまいりますので、皆様のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、本年が皆様にとりまして幸多き飛躍の年となりますことを心から祈念申し上げ新年のあいさつとさせていただきます。

新年明けましておめでとうございます。

昨年を振り返りますと、新型コロナウイルス感染症に翻弄された一年でありました。そのような中でも、東京オリンピック・パラリンピックが無事に開催され、日本もメダルラッシュに沸いたことが鮮明に思い出されます。

さて、昨年11月30日に最新の国勢調査データが発表されました。5年前の調査から総人口が約95万人減少するという衝撃的な数字でありましたが、特に気がかりなのはその中で単身高齢者が5年間で約672万人も増えたということです。コロナ禍における人と人との関係性の希薄化は単身高齢者にとって非常に大きな課題であり、とりわけ大規模災害が発生し、いざ避難するとなった時に取り残されることが懸念されます。このような社会不安を少しでも取り除くべく、本市では令和3年度から「摂津市行政経営戦略」に基づき、人と人との繋がりを実感して安心して暮らしていただけるまちづくりを展開しております。アフターコロナを見据え、持続可能なまちづくりをするうえで、人の温かみを感じられるソフト面の施策を充実させる一方、ハード面においては河川防災ステーションの誘致に取り組むほか、広域での分散避難を可能にするべく取組を進めてまいります。

社会情勢の目まぐるしい変化の中、常に行政課題が尽きることはありませんが、本年も引き続きご理解ご協力を賜りますようお願い申し上げます。年頭のごあいさつといたします。



市長
森山 一正